

側に片仮名で「ククシ」と記されている。「ククシ」は括（くくす）の連用形が名詞化したもので、一括りという意味と思われる。台座数点が入れ子の状態で見つかっており、一〇枚程度が一括りに束ねられていたものと推測できる。(5)は上段に屋号と思われる目印、下段にはサインと思われる丸印が記されている。(6)(7)もほぼ同様のもとのと考えられる。

#### 9 関係文献

水中考古学研究所『広島県 宇治島沖沈船（推定いろは丸）調査報告書』（一九九九年）

同『沈没船（一九世紀のイギリス船）埋没地点遺跡発掘調査報告－推定いろは丸－』（近刊予定）

（吉崎 伸（財）京都市埋蔵文化財研究所）

## 広島・安芸国分寺跡

あ  
き  
こくぶんじ

1 所在地 広島県東広島市西条町吉行字伽藍  
2 調査期間 一一〇〇四年（平16）四月～五月、二一二〇〇四年一月～二〇〇五年一月

3 発掘機関 (財)東広島市教育文化振興事業団

4 調査担当者 渡邊昭人

5 遺跡の種類 寺院跡

6 遺跡の年代 八世紀中葉～一一世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

史跡安芸国分寺跡は、広島県西部を占める古代安芸国のほぼ中央

に位置し、西条盆地北側の段丘上に立地する。



（海田市・竹原）

第二三～二五次調査は、寺域の東端の確認を目的として行なった。第二三次調査区は、史跡指定地の外側にあたる。発掘調査の結果、古代の遺物は出土したが、寺域を区画する施設などは

確認されなかつた。木簡は、自然の谷と考えられる窪地から削屑一  
点が出土した。

第二五次調査区は、史跡指定地内にあたる。発掘調査の結果、遺  
存状態は悪いが、築地塀の版築時に使用する檻板を支える掘立柱と  
考えられる柱穴列を検出した。木簡は、第一二次調査（本誌第二四  
号）で「天平勝宝二年」（七五〇）の紀年銘木簡が出土した土坑に流  
れ込んでいたと考えられる溝状遺構から、七点が出土した。この中で  
はそのうちの文字が判読できた一点を紹介する。

## 8 木簡の糸文・内容

### 一 第二三次調査

(1)



091

横材木簡の削屑であるが判読できない。

### 二 第二五次調査

(1)



(132)×22×3 039

上端は圭頭状に仕上げられている。下端は欠損し、表面は風化し  
ている。赤外線カメラで判読できた。

なお、糸文にあたつては、広島大学の佐竹昭氏の教示を得た。

## 9 関係文献

2005年出土の木簡

(財)東広島市教育文化振興事業団『史跡安芸国分寺跡発掘調査報告  
書Ⅳ』(1100六年)  
(石垣敏之)

